

# 3. Findings



※1%未満については数字を非表示しております。

※ご回答者の生の声を記載した「ピックアップコメント」のページでは、グリーン背景は患者さんご本人、イエロー背景はご家族のご意見です。

## サマリー

---

- ✔ 患者・家族ともに食について悩んでいることがわかった。食事を楽しめないことはQOL (Quality of Life) に影響する悩みであった。
- ✔ 「食事が楽しめない」には、食欲がない、味が変わって感じるなどの状況があった。
- ✔ 患者・家族ともに体重減少についても悩んでいた。体重減少は日常生活に影響を及ぼしており、また不安な気持ちにもなっている。
- ✔ これらの悩みを相談していない方は、5割近くいた。また相談した方においても、満足できた方は4割に留まった。満足できない方の課題解決としては十分でなく「自分で解決するしかない」と考えている方が多いという結果になった。
- ✔ 満足できなかった理由としては、参考になる情報が得られなかった等が挙げられる。

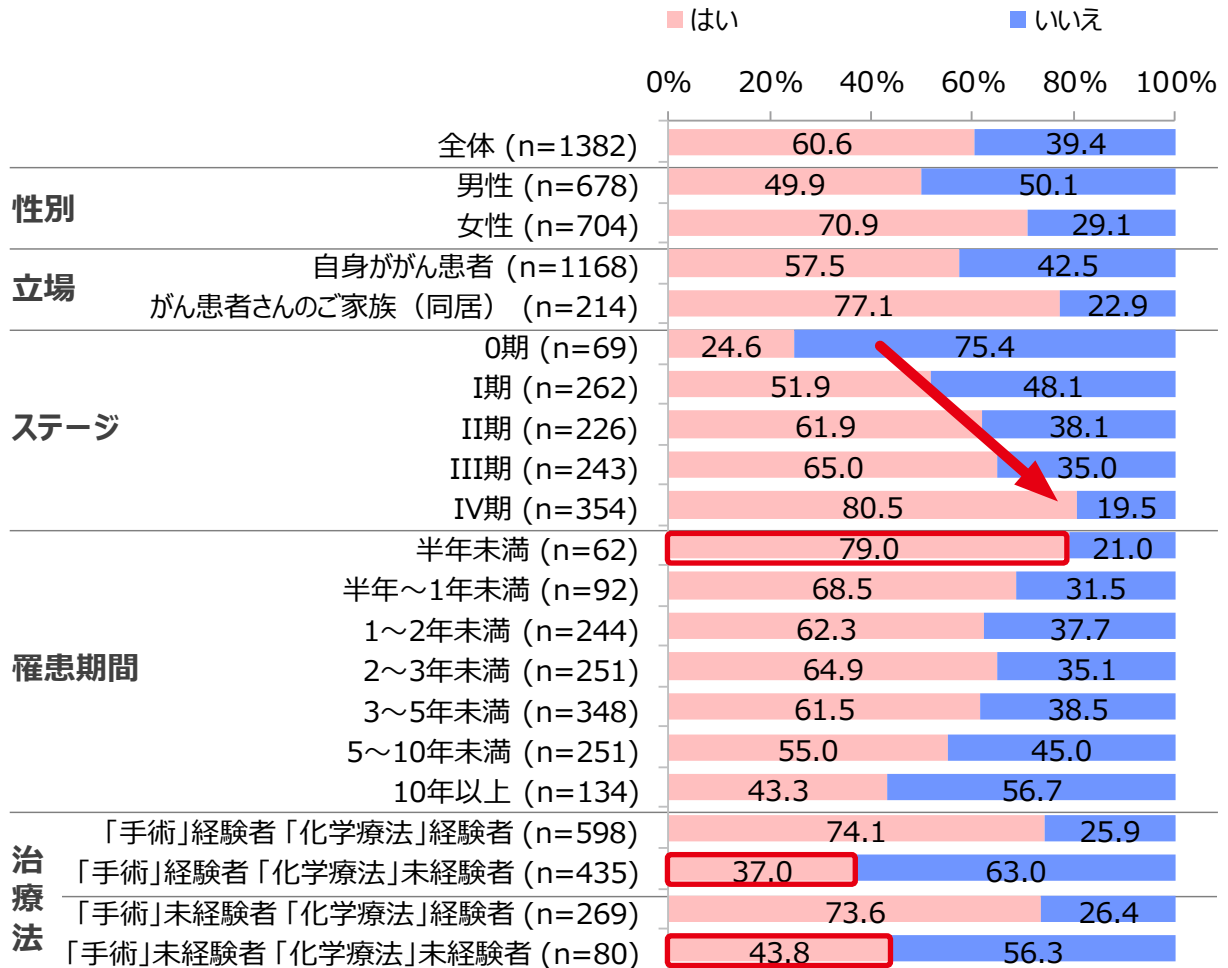
# 食の悩み 患者は6割、家族は8割

## 食事に関する悩みとその関係性

Q17. がん治療中の食事について気になることや悩みを感じたことがありますか。

(例: 食欲がわかない、味が変わって感じるなど)

※ご家族の方はがん患者さんのことについてお答えください。



- ✔ これまでに食事について気になることや悩みを感じたことがある方は、全体の6割以上存在していた。立場ごとにみると、「家族」で77%、「患者さん本人」で58%となっており、「家族」のほうが高くなっている。
- ✔ ステージ別では、ステージが進んでいるほうが気になることや悩みを感じたことがある人が多かった。罹患期間別では、期間が短い方ほど悩みは多く、半年未満の方では79%の方が悩みを抱えていた。
- ✔ 治療法別では、化学療法未経験者でも4割前後は食に関する悩みを抱えていた。

## 食の悩み

### ピックアップコメント

食欲が落ちてあまり食べられず体重が減少した。少しでも多く食べようと意識はしていたが、味覚がおかしくなって食べてもおいしいと感じることが少なかった。また下痢も激しく、食べたものが消化されて栄養になっているとは全然思えなかった。

(すい臓がんⅡ期 60代 男性 患者)

抗がん剤治療中は、骨髄抑制期間の食生活にはずいぶん悩みました。免疫力がゼロに近いほど低くなってしまっているのです、生ものとか怖くて口にできないし、少しでも回復するにはどんな栄養を取ればいいのかと必死で勉強しました。食事で免疫力を上げることはできないと言われてましたが、少しでも体に良さそうなものを考えて準備していました。

(子宮体がんⅢ期 40代 女性 患者)

何を食べて、何を食べてはだめなのかわからない。本人が食べたい物を食べています。胃と腸を手術しているので消化のよい物が良いのかとか色々考えますが、とにかくわかりません。甘いお菓子をよく食べるのでとても心配です。前立腺がんは手術していないので甘い物が悪影響になるのではと心配です。本人は食べたい物を食べたいように食べていますが、それだとがんになる前と同じなので。体の為に食べてほしいものが本人が嫌だと言えどどうすればいいのか。とにかく栄養をつけてほしい。高齢者の食事について情報がほしい。

(大腸がんⅢ期 40代 女性 家族)

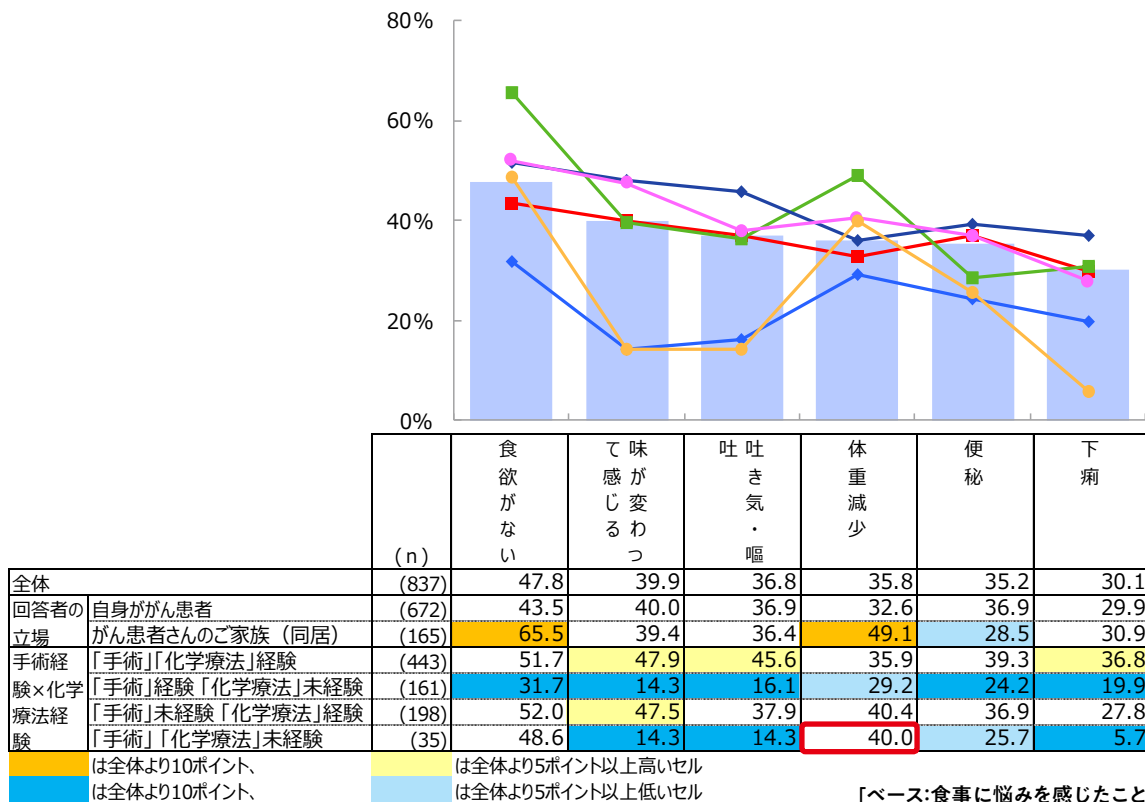
# 患者・家族 食の悩みは 食欲がない、味の変化、吐き気、体重変化

## 食事と体重減少について

Q18. Q17で「はい」とお答えした方にお聞きします。  
当てはまる項目を全て選んでください。(いくつでも)

※ご家族の方はがん患者さんのことについてお答えください。

- 全体(n=837)
- がん患者さんのご家族(同居)(n=165)
- 「手術」経験者「化学療法」未経験者(n=161)
- 「手術」未経験者「化学療法」未経験者(n=35)
- 自身ががん患者(n=672)
- 「手術」経験者「化学療法」経験者(n=443)
- 「手術」未経験者「化学療法」経験者(n=198)



- ✔ これまでに食事について気になることや悩みを感じたことがある方に、具体的な食関連の悩みを聞くと、全体では「食欲がない」が5割近くとなり、最も多い結果となった。また、「味が変わって感じる(40%)」「吐き気・嘔吐(37%)」「体重減少(36%)」もすべて4割近く、様々な悩みが混在していることがわかった。
- ✔ 「食欲がない」に関しては「家族」で66%、「患者さん本人」で44%と20pt以上差があり、「家族」のほうが悩んでいることがわかる。「体重減少」に関しては「手術・化学療法とも未経験者」でも40%となっており、治療法に関わらず悩みが存在していることがわかる。

## 食欲がない、味の変化、吐き気、体重変化

### ピックアップコメント

食事が一番困った時期は、抗がん剤治療中でした。歯科の先生のケアのお陰もあり、口内炎などの口腔内トラブルは全く無かったのですが、味覚異常と吐き気などから、あまり食事ができず、体重が4キロ程減りました。

(乳がん IV期 50代 女性 患者)

食道全摘で胃管再建なので少し食べただけでかなりの苦しさをを感じる。こんな食生活がこの先ずっと続いたら死んだ方がましだと時々思うことがある。体重が減少したままでガリガリの身体が嫌だ。術後の反回神経麻痺で嘔声になり、飲み込みも少し辛い。空気も飲み込むので苦しいのが一日中続く。

(食道がん II期 50代 男性 患者)

なかなか食欲が湧かないらしくて、食べてもらえない時があります。特に量は格段に減ったので、体重減少や体力の低下が心配。喜んで食べてくれる食事を作ったり考えるのが大変です。

(乳がん IV期 40代 男性 家族)

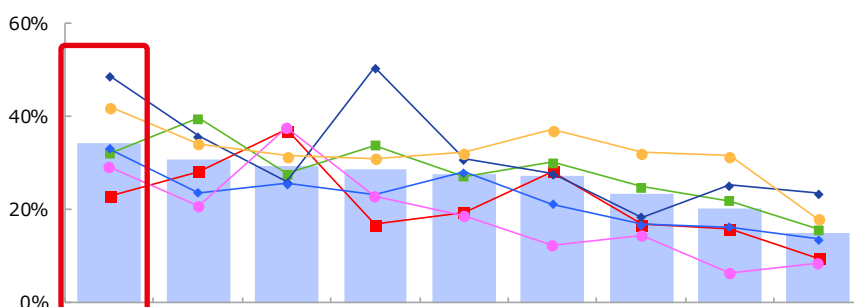


# 〈患者の食の悩み〉

## 楽しめない、おいしくない、何を食べてらいいかわからない

### 食の悩みと体重変化（患者さん本人）

Q19. Q17で「はい」とお答えした方にお聞きします。  
当てはまる項目を全て選んでください。（いくつでも）



	n	食事を楽しめない	ング・栄養など	たい・食生活が適か	今・量の回・タイ	いかと考えた	でがなまの食生活	これまの食生活	すぐにお腹いっぱい	おいしいと思わない	らない	何を食べてらいい	調理すること	偏食になっ	たが治療の影響
全体	672	34.4	30.8	29.3	28.9	27.7	27.2	23.4	20.4	15.0					
体重の変化	変わっていない	113	23.0	28.3	37.2	16.8	19.5	28.3	16.8	15.9	9.7				
	少し体重は減った	201	37.3	30.8	25.9	31.3	25.9	26.4	27.4	17.4	16.9				
	かなり体重は減った	162	48.8	35.8	25.9	50.6	30.9	27.8	18.5	25.3	23.5				
	増えた	188	25.0	28.7	31.9	15.4	31.4	27.1	27.7	22.3	9.6				
体重変化への気持ち	わからない	8	50.0	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	12.5	0.0					
	とても気にしてる/不安になる	161	42.2	34.2	31.7	31.1	32.3	37.3	32.3	31.7	18.0				
	やや気にしてる/不安になる	209	32.1	39.7	27.8	34.0	27.3	30.1	24.9	22.0	15.8				
	どちらとも言えない	86	29.1	23.3	32.6	27.9	23.3	20.9	20.9	11.6	15.1				
	あまり気にしてない/不安にならない	160	33.1	23.8	25.6	23.1	28.1	21.3	16.9	16.3	13.8				
全く気にならない/不安にならない	48	29.2	20.8	37.5	22.9	18.8	12.5	14.6	6.3	8.3					
気にしてる・計（TOP2）	370	36.5	37.3	29.5	32.7	29.5	33.2	28.1	26.2	16.8					
気にしてない・計（BOT2）	208	32.2	23.1	28.4	23.1	26.0	19.2	16.3	13.9	12.5					

は全体より10ポイント、

は全体より5ポイント以上高いセル

- がん患者さんの食に関する悩みをみると、全体で「食事を楽しめない」が34%と最も多かったが、「おいしいと思わない」「何を食べてらいいかわからない」といった悩みも挙げられている。
- 体重の変化別では、体重が減った方ほど食事を楽しめておらず、「かなり体重は減った」方においては49%と半数近くにのぼった。体重の変化への気持ち別では、「とても気にしている」が42%、「やや気にしている」が32%と、やはり気にしている度合いの高いほうが食事を楽しめていない状況である。

## 患者の食の悩み

### ピックアップコメント

情報がありすぎて、どれを信じたらいいのかわからない。食は人生の大きな楽しみだったので、楽しめないことや嘔気は辛かった。

(乳がんⅡ期 40代 女性 患者)

食べるのが楽しみの一つでしたがすぐにお腹いっぱいになったり糖尿も気になる。楽しく食事が出来ないのでストレスすら感じるようになってしまいました。

(すい臓がんⅣ期 50代 女性 患者)

職場の歓送迎会や、ランチ等に参加できなくなった。

歓送迎会等はやや強制的なのですが、お酒は飲めないし食事は食べきれないし苦痛。それに参加しないことでコミュニケーションにも支障が出るように思う。

みんなはどう対応しているのだろう、楽しむにはどうしたら良いのだろうと悩みます。

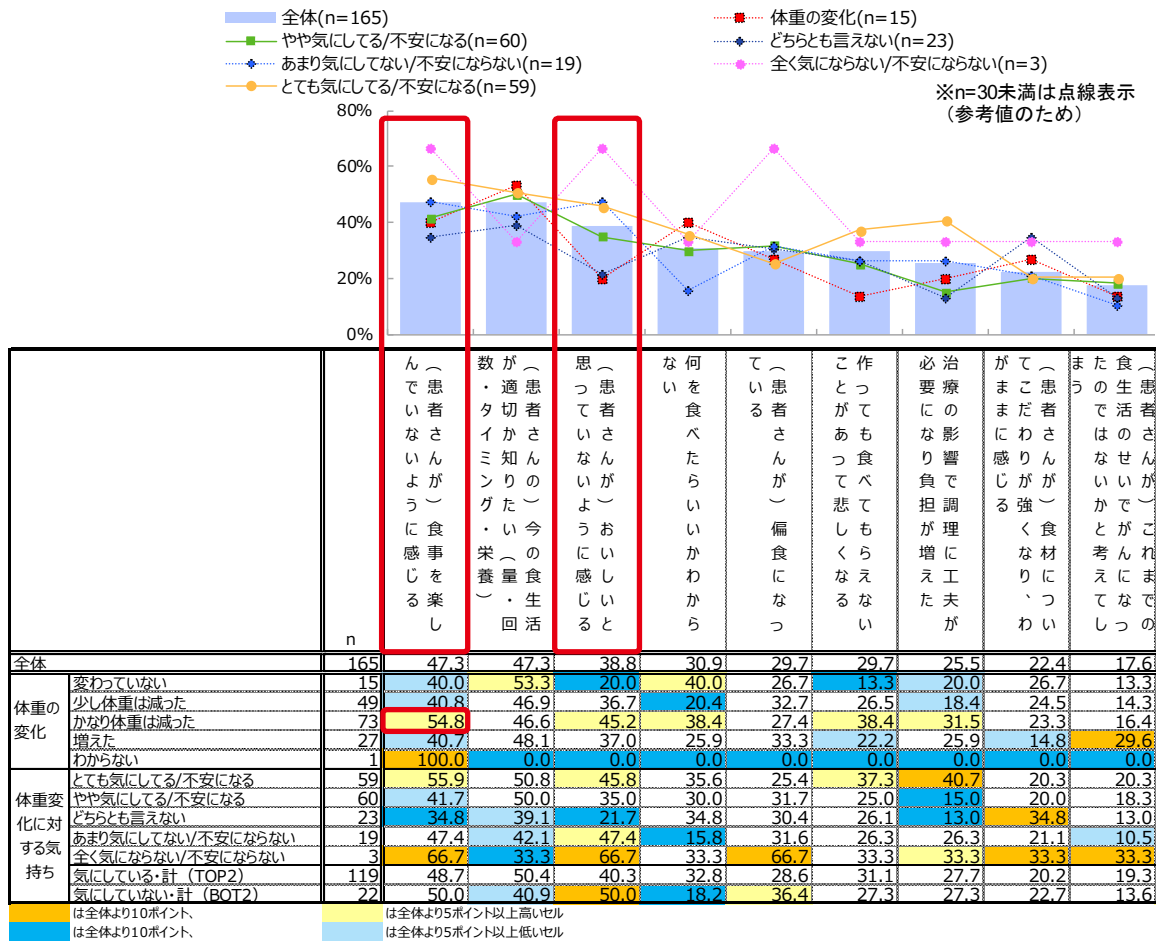
(頭頸部がんⅣ期 40代 女性 患者)



# 〈家族の食の悩み〉 楽しそうじゃない、おいしくなさそう

## 食の悩みと体重変化（家族）

Q20. Q17で「はい」とお答えした方にお聞きします。  
当てはまる項目を全て選んでください。（いくつでも）



- ✔ 「家族」の食に関する悩みをみると、「患者さん本人」同様に「（患者さんが）食事を楽しんでいないように感じる」が47%と最も多く、「（患者さんが）おいしいと思っていないように感じる」も39%と上位に挙げられている。
- ✔ 体重の変化別では、体重が減った方ほど食事を楽しんでいないように感じており、「かなり体重は減った」方においては「（患者さんが）食事を楽しんでいないように感じる」が55%と半数を超えている。
- ✔ 全体で2位の「今の食生活が適切か知りたい」も各セグメントにおいて高く、食に関する情報への高いニーズがうかがえた。

## 家族の食の悩み

### ピックアップコメント

以前は食べるのが好きで自分で作るほどだった夫が、あまり食べることに関心がなくなっただのが悲しい。私が作っても食べる気がしないと言って食べないことがあるが、食べないと体力も落ちて栄養もとれず心配になる。

(大腸がん IV期 40代 女性 家族)

体重減少を本人がすごく気にしているので、なるべく栄養をつけてほしい。でも何が刺激で嘔吐につながってしまうのかわからず辛い。また、自分がつくった料理が原因で嘔吐の苦しみを与えているふうに感じてしまい、病巣のせいとわかってはいても苦しんでいる。夫を見ているのがとても辛い。

(胃がん IV期 30代 女性 家族)

食事が生きる上での楽しみの1つなのに、その食事を制限されると、生きること自体へのやる気がなくなるようで、そこをどう前向きになってもらうかが難しい。

(大腸がん III期 30代 女性 家族)

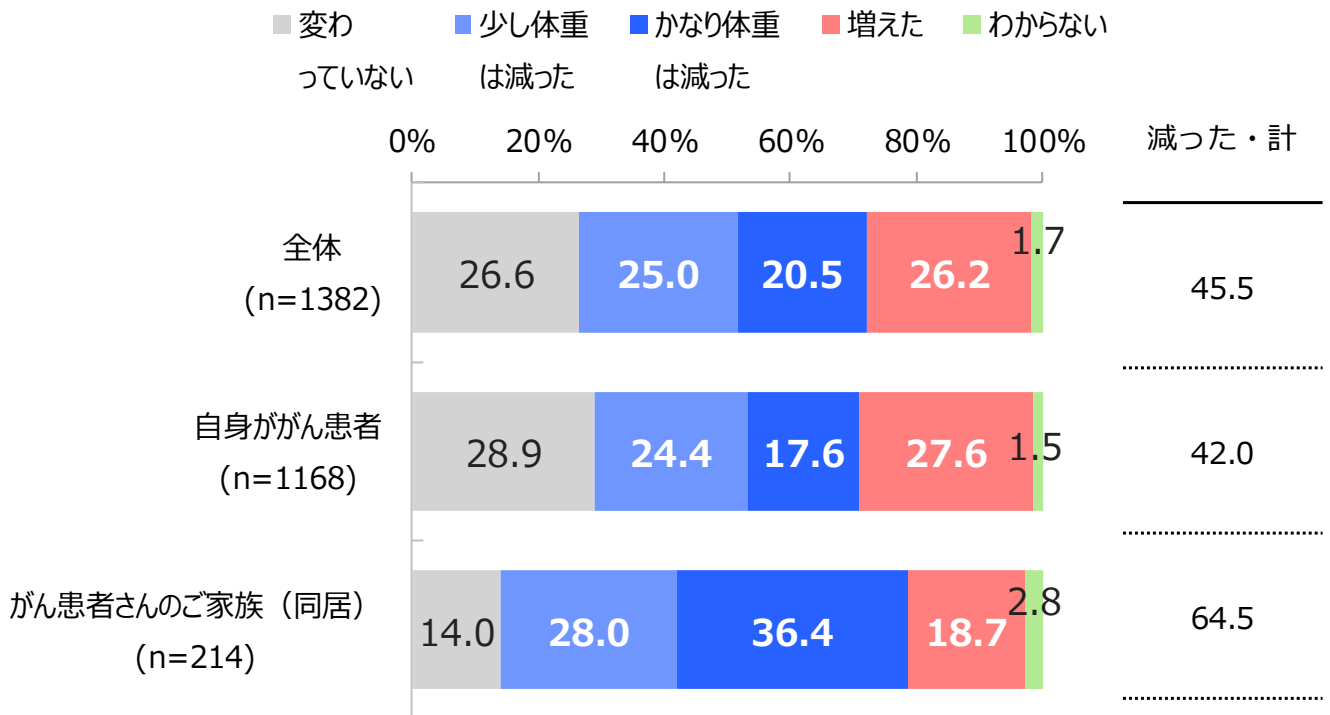
# 体重、5割近くが「減った」 患者で4割、家族で6割

## 体重の変化

Q22. 現在の状況についてお聞きします。

がん診断前と比べて、体重の変化について選んでください。

※ご家族の方はがん患者さんのことについてお答えください。



- ✔ 体重の変化をみると、「減った・計」（「かなり体重は減った」+「少し体重は減った」）は全体の46%にのぼり、半数程度の方が体重減少を経験している。「患者さん本人」では同割合は42%、「家族」では65%となっている。

## 体重が減った

### ピックアップコメント

食欲がわかず、体重が10kgほど減少し、周りに心配をかけた。療養中は動かなかったので空腹感がなく、自然に体重が落ちてったので、心配してもらおうとよけいプレッシャーに感じた。

(乳がんⅡ期 50代 女性 患者)

食欲はあるのですが、すぐにお腹が張って（いっぱい感じて）箸が進まなくなります。つい先日も再発で入院しましたが、病院食も7割くらいしか食べられません。体重減少がやっと止まりましたが、手術前には65kgあったのに、今は50kgを切っています。なかなか50kg台には戻らないのが悩みです。スマートになったのは嬉しいのですが、体力がガクッと落ちています。なにか他の人からヒントをいただけるとありがたいですね。

(すい臓がんⅣ期 60代 男性 患者)

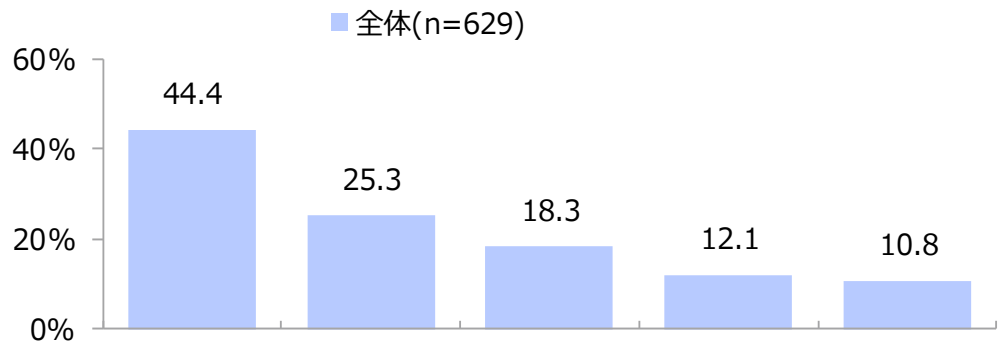
食欲が基本的に少なく、食事を抜くことがある。食後に下痢になりがちで、そのため移動や仕事が忙しいときには食事を抜くことが多い。体重が15kg~20kg減ったが、妻の私には知られたくない。食べると言わないように、食事は用意してもよそわず、自分で好きなタイミングで好きな量を食べてもらうようにしている。残り物を食べるので健常者の私は体重が増加傾向、しかし患者に合わせた献立なので、私も食事は楽しめない。

(胃がんⅢ期 50代 女性 家族)

# 体重減少による影響疲れやすく、 日中の活動が制限される

## がん種による体重変化の悩みについて

Q26. 体重減少について当てはまる項目について全て選んでください。(いくつでも)



		(n)	疲れやすく、日中の活動が制限される	がんに負けているのではないかと思ひ、不安になる	周囲にやせたと思われるのではないかと辛い気持ちになる	鏡を見るのが辛い	またやせたのではないかと思ひ、体重計に乗りたくない
全体		(629)	44.4	25.3	18.3	12.1	10.8
がん種 (50s以上)	頭頸部がん	(34)	38.2	17.6	8.8	8.8	5.9
	肺がん	(82)	51.2	32.9	17.1	15.9	14.6
	乳がん	(52)	32.7	19.2	13.5	13.5	5.8
	胃がん	(106)	49.1	25.5	35.8	24.5	14.2
	大腸がん(結腸がん・直腸がん)	(90)	41.1	24.4	15.6	8.9	10.0
	腎細胞がん	(15)	33.3	40.0	20.0	6.7	26.7
	膀胱がん	(11)	36.4	0.0	9.1	0.0	18.2
	前立腺がん	(26)	19.2	42.3	26.9	3.8	3.8
	悪性リンパ腫	(34)	32.4	20.6	8.8	2.9	5.9
Q6	0期	(15)	33.3	6.7	20.0	13.3	13.3
	I期	(101)	40.6	23.8	13.9	13.9	9.9
	II期	(94)	36.2	16.0	14.9	11.7	12.8
	III期	(112)	42.9	24.1	21.4	9.8	10.7
	IV期	(216)	50.9	31.9	24.1	14.4	12.0
	わからない	(91)	45.1	25.3	8.8	7.7	6.6
は全体より10ポイント、			は全体より5ポイント以上高いセル				
は全体より10ポイント、			は全体より5ポイント以上低いセル				

[ベース:体重減少がある方]

- ✓ 体重の変化による悩みを見ると、全体では「疲れやすく、日中の活動が制限される(44%)」が最も高かった。
- ✓ 体重減少による悩みを見ると、「周囲に痩せたと思われるのではないかと辛い気持ちになる」「鏡を見るのが辛い」が「また痩せたのではないかと思ひ、体重計に乗りたくない」よりも高く、実際の体重よりも人の目に映る姿を気にしていることがわかる。

## 体重減少による影響＝疲れやすい

### ピックアップコメント

食欲がなくなり、あまり食べたいと思わなくなり、体重が減り、周囲から心配されています。抗がん剤の副作用で食欲がない方は、どのようにして、食事を楽しんでいるのかが知りたいです。がん治療中ですが、小学校教諭を続けていて、仕事がハードです。食べられなくなったことで体力が落ち、体力の限界を感じながら仕事をしています。他の人は、どのように工夫して食べられない分の栄養を補給しているのかが知りたいです。  
(脳腫瘍 IV期 40代 女性 患者)

食べられなくなってきて、体重がかなり減ってきている。体力がとても落ちてきてすぐにとっても疲れる。今後、ポートの処置を予定している。心配と不安しかない、辛いです。  
(胃がん IV期 40代 男性 家族)

家族は食べて欲しいが、本人はとにかく食べられなくて、体重が減り、体力も、気力も落ち、動かなくなってしまっているので、筋肉が落ち、ますます食欲がわからない、の悪循環で、体力が落ちると抗がん剤治療も辛くなるので、なんとか体重減少を食い止めることができなにか、と悩みます。

(すい臓がん IV期 50代 女性 家族)

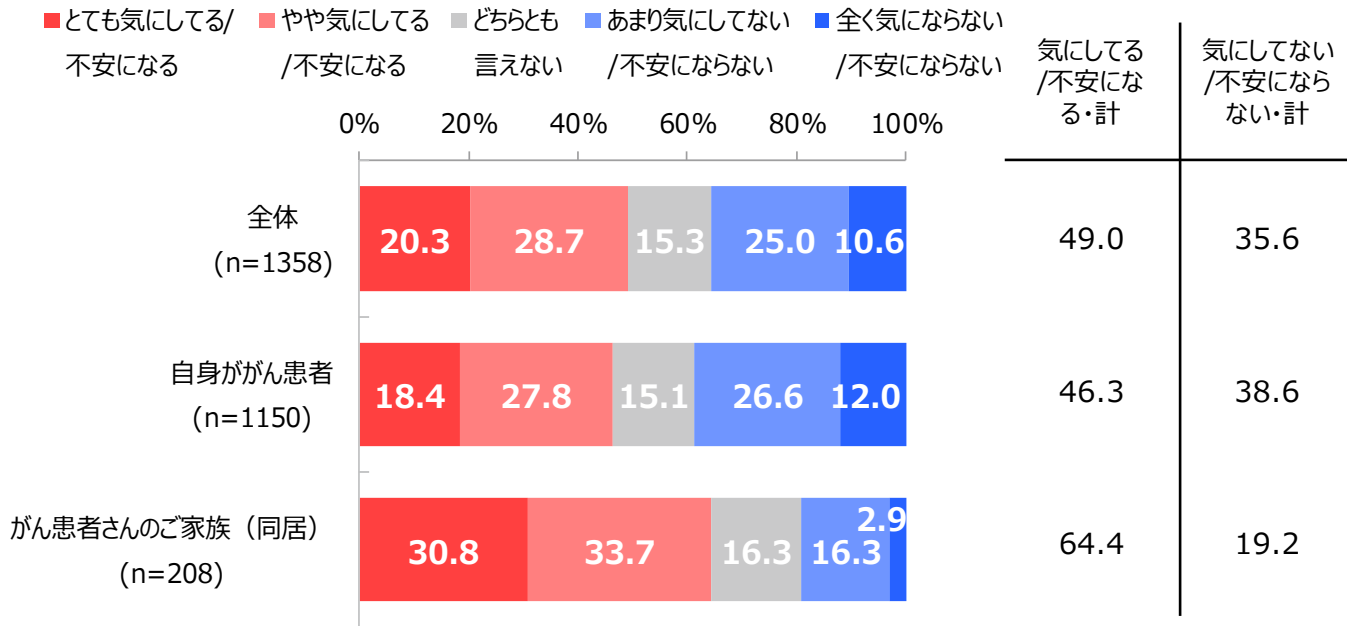


# 体重減少、5割は「不安」 患者で5割、家族で6割

## 体重の増減に対する不安について

Q25. 体重の変化についてどのように感じていますか。当てはまるものをお選びください。

※ご家族の方はあなた自身がどのように感じているかについてお答えください。



- ✓ 体重の変化に対して、「気にしている/不安になる」と回答した方が49%と約半数となっている。「患者さん本人」では46%、「家族」に至っては64%と6割を超えている。

## 体重減少「不安」

### ピックアップコメント

味覚が変わり、何もおいしいと思えなくなった。体重も減り、体力低下を感じている。他の人はどうしているのか知りたい。

(肺がんⅣ期 50代 男性 患者)

抗がん剤後に糖尿病予備軍になっていることがわかり、その後のPET検査の時に、がんにブドウ糖が集まる話を聞いて、糖質を摂ることが怖くなった。糖尿病の治療もあって、より体重が増えない。筋肉も無くなって、痩せてしまったので食べると言われてけど、不安でついつい食事の量を減らしてしまう。悪循環な気がする。

(卵巣がんⅣ期 40代 女性 患者)

夫婦で熱心に調べ、納得して、治る為に良いことは何でも取り入れるようにした。人参、りんご、レモンのジュースはスローミキサーで毎日飲む、四つ足動物肉は食べない、野菜中心で発酵玄米など…。が、専門知識もない自分の采配いかんで夫の体調や病状が悪くなるのではないかと不安でした。がんが進行していくと食が細くなり痩せていき、なんとか食べさせたくて工夫をしたが、残されてしまうと病気に負けた気がし、悲しくてやるせなく辛かった。

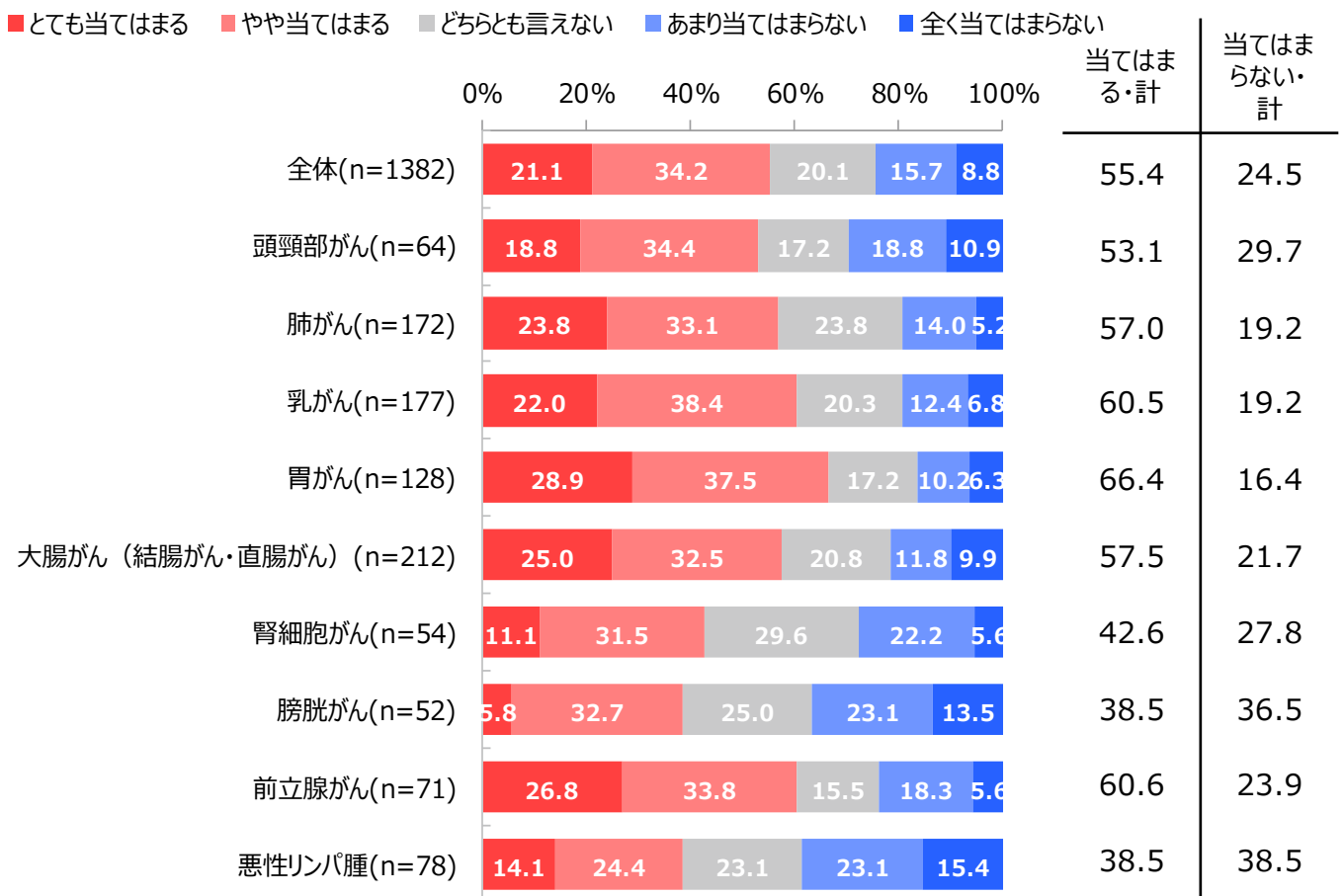
(メラノーマⅣ期 50代 女性 家族)

# 食に関する情報、半数以上が「収集している」

## 食に関する情報収集

Q27. 食に関する行動の当てはまり度合いをお答えください。

「がんになって以降、以前より食事についての情報収集を行うようになった」



[ベース：体重変化に不安を感じている方]

- ✔ がんになって以降、全体の5割以上が以前よりも食事に関する情報収集を行うようになっている。特に「胃がん」では情報収集している割合が66%と他のがん種より高くなっており、より情報収集を行っていることがわかる。
- ✔ 消化器がん以外の肺がん、乳がん、前立腺がんなどの方においても、情報収集をしている方が5割を超えている。

## 情報収集

### ピックアップコメント

ネットの情報には慎重になっています。医学の常識もよく変わるので、注意が必要かと最近は思うようになりました。

(前立腺がんⅡ期 60代 男性 患者)

食に関する事は患者会や書物でもいろんな情報がありますが、正直結果が余り見えてませんので、個人としてなんともいえないのが感想です。(例えば患者会の懇親会でもアルコール大丈夫と言う人も)

(乳がんⅣ期 70代 女性 患者)

がん情報サイトや患者会などで情報集めをしたり、運動はできる限り毎日できる範囲でやり、たんぱく質は意識して摂る様にして、食べ方にも気を付けるようにしています。また、治療の抗がん剤による副作用も勉強して、事前に出来る予防方法はしています。

(肺がんⅠ期 60代 女性 家族)

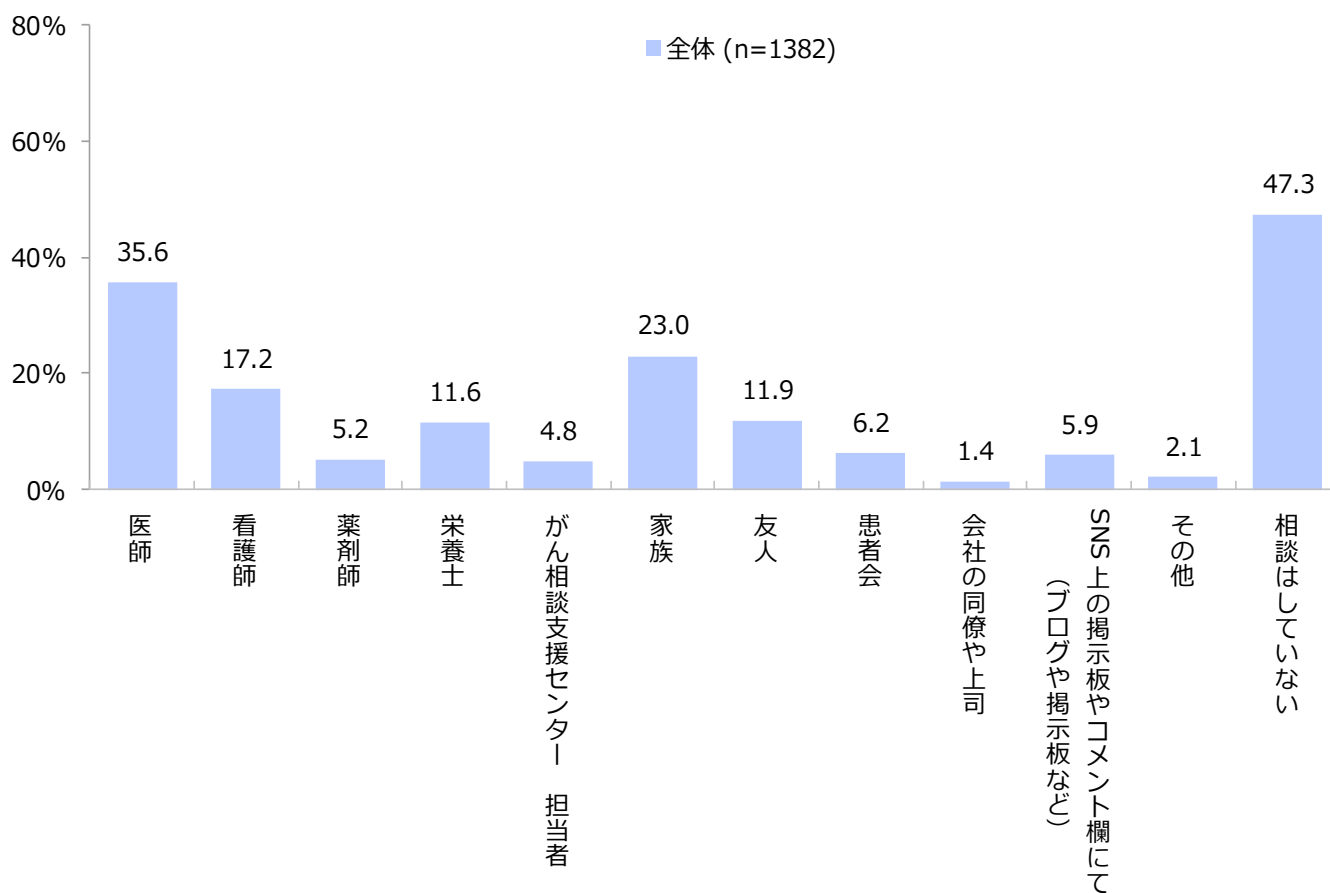
日本栄養士会のHPに、がん治療時の症状別対応ポイントと料理・献立集があります。何かと便利かなあと思います。無料です。自身が管理栄養士というのがありますが、もっと栄養士に頼ってほしいです。情報過多の状況で何を頼っていいのかがとても難しいので、見極めには専門家のアドバイスが大事。

(頭頸部がんⅣ期 40代 女性 家族)

# 食と体重の悩み、5割が「相談できていない」

## 悩みの相談先について

Q29. 食事と体重減少に関するお悩みについて、  
相談したことがある方を全て選んでください。(いくつでも)



- ✔ 食事と体重減少に関する悩みについて、相談したことがあるか確認したところ、「相談はしていない」と回答した方が全体で47%となっており、約半数が相談していないことがわかる。

## 相談できていない

### ピックアップコメント

食生活とがんとの関係性があるのかも判明されていなく、医師に聞いても特に制限はない。何もわからないまま、今と同じ食生活をしていていいのか不安で仕方がないが、相談するところもなく、困っている。

(乳がんⅡ期 40代 女性 患者)

化学療法後は口内炎だらけすぎて、ビッシリ口内炎。醤油も砂糖もしみわたりました。とても何も食べる気がしない日が数日すぎた。仕事も辛うじてできるし、外見からは口内炎だらけなのも、爪が割れるのも、皮膚が薄くなったのもわからないことだらけ。外科医の先生は忙しすぎる。患者同士の交流がもっとさかんになって、思いが共有できるようになったら、今苦しんでいる人も、昔苦しんでいた人も救われるのかもしれない。

(乳がんⅡ期 40代 女性 患者)

食べても痩せていき、最終的に食べる力もなくなってしまったこと。骸骨のように見えるようになった顔を、息子が鏡でよく見ていた。自分も強い悲しみを感じたが、何かコメントすることは避け、黙っていた。相談しても痩せることを止められないと思い、絶望していた。(中略) 今、振り返ると「がん悪液質」だったと考えられる。息子が自分自身の姿を見て、悲しんだり、絶望したりしないように、心理的なサポートがあればよかったと思う。「がん悪液質」とわかった時の対策があれば知りたかった。悪液質の治療法の開発も進めばいいと思う。

(サルコーマⅣ期 50代 女性 家族)

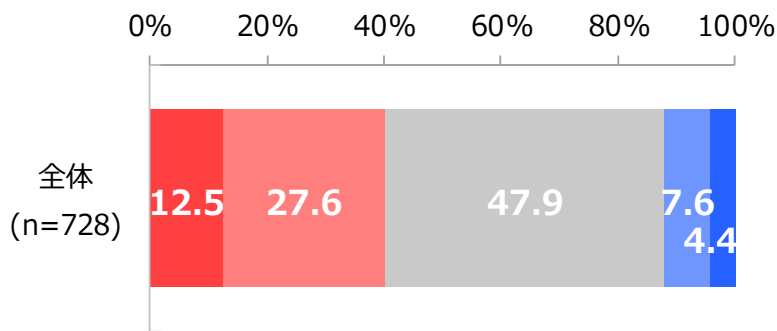


# 相談しても、満足できた人は4割

## 悩みの相談に対する満足度について

Q30. 食事と体重減少に関するお悩みについて、  
相談した結果、どのように感じましたか。

■ 満足 ■ 少し満足 ■ どちらとも言えない ■ 少し不満 ■ 不満



	満足・計	不満・計
	40.1	12.0

[ベース:悩みを相談した方]

- ✓ 食事や体重減少に関して相談した結果に対して「満足」(「満足」+「少し満足」)と回答した割合は40%、「どちらとも言えない」が48%、「不満」(「少し不満」+「不満」)が12%となっており、満足していない方が一定数存在している。

## 相談した結果

### ピックアップコメント

友人が管理栄養士でしたので、術後直後のときは何を食べられるのか、どう調理すれば良いのか、大変困ったが、食べられるものを用意してくれたり、術後の後遺症を調べて教えてくれた。身体に貯蔵されている鉄が徐々に減っていくことも、友人のおかげで術後すぐに知識として持っていた。鉄分を意識した、料理作りをすることが出来た。

(胃がん I期 30代 女性 患者)

一般的な答えしか返ってこない。具体的な事例が提示されない。食事量、治療後どのくらいの時期からどうすればよいか等。

(胆道がん IV期 60代 男性 患者)

根拠のとぼしい説明会を受けても、ストレスがたまる。医師は、栄養士でないのに、栄養のことをかたる→専門外だろ!といらいらする。がん治療に携わる者、全般に、栄養に関する知識不足を感じる。逆に栄養士は、がん治療のことを知らなさすぎる。→誰に相談しても、心からすっきりしない。

(肺がん IV期 30代 男性 患者)

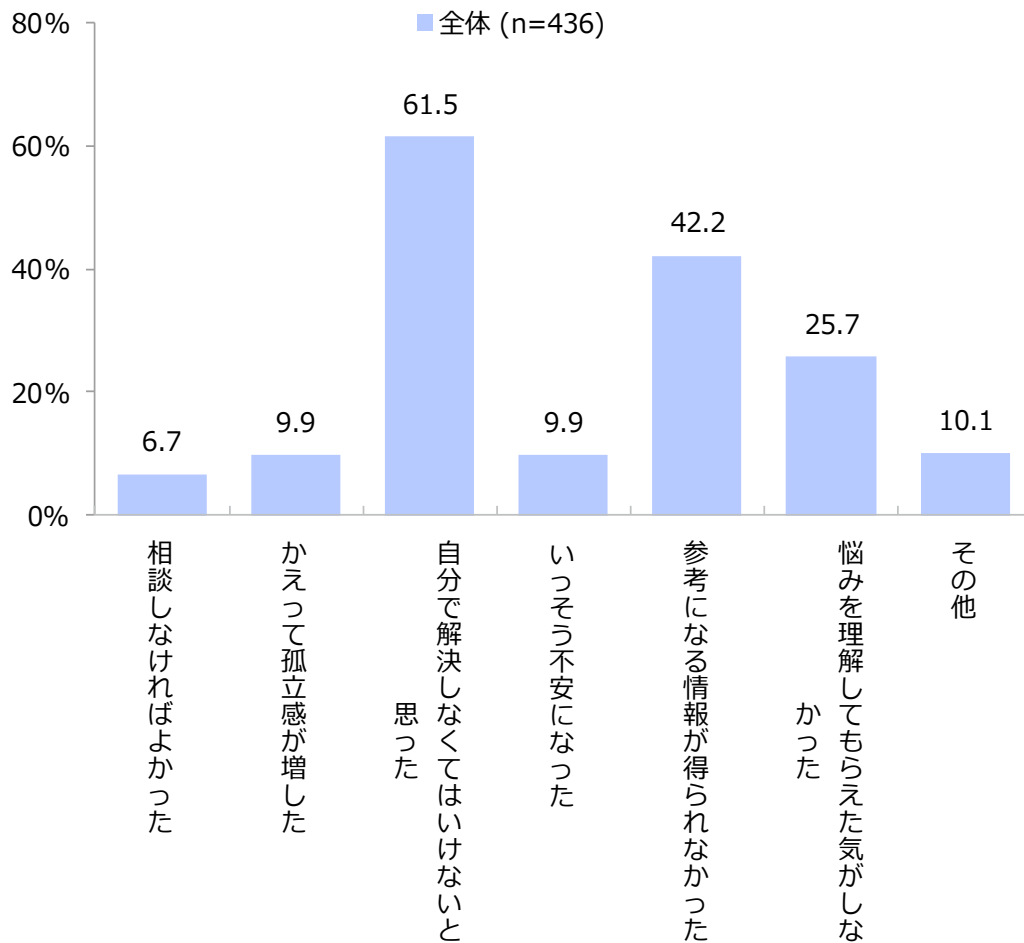
医師は相談しても、食べられるものを食べてください、というだけで、積極的な作戦? などのような知恵は得られませんでした。栄養補助食品について尋ねても、あまり詳しくないのか、「食事で充分」とのことでした。でも現実に痩せていくばかりです。

(すい臓がん IV期 50代 女性 家族)

# 相談した結果、「自分で解決しなければと思った」6割 「参考になる情報が得られなかった」4割

## 悩みの相談結果に対する気持ち

Q33. 相談をし、少し不満、不満を感じた際、どのように思いましたか。  
当てはまるものを全て選んでください。(いくつでも)



[ベース:悩みを相談して不満を感じた方]

- ✔ 悩みを相談し不満を感じた方がその際に思った内容として、「自分で解決しなくてはいけないと思った」が62%と最も高く、続いて「参考になる情報が得られなかった」が42%となっており、解決策や情報が不足していることがわかる。

## 相談したが不満足

### ピックアップコメント

私の主治医は優秀だと思いますが、丁寧に説明してくれる時間がありません。食事に関しても丁寧にアドバイスしてくれる専門家がいてくれるとありがたいと思っていますが叶いません。体重と体力の低下に搦いては、もう、このままあきらめるしかないと思っています。

(肺がん IV期 60代 男性 患者)

病院で教えてくれないのなら…と、自分で調べたりしますが、それが本当に正しい食事療法なのか…と考えながらやっている状態です。できることなら、病院で食事の指導をしていただけるようになれば…と思っています。

(大腸がん IV期 50代 女性 患者)

本気で解決方法を探してくれてるのかと不信感が残った。

(胃がん IV期 40代 女性 家族)

2度目の再発以降、治験も含めた治療法のみならず、自身の免疫力を高めるなどあらゆる方法、あらゆる手段を試みることに専念した24年間をすごしました。夫として可能な限りの情報収集、心理的サポート、体力的サポートをし続けましたが、がん患者の家族に対するケア、対応方法などの情報、サポートの少なさに苦勞し、がん患者自身とは異なる孤立感を感じました。

(頭頸部がん IV期 50代 男性 家族)